

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したことになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ねむの木
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	長崎県大村市
記入者名 （管理者）	上野里代
記入日	平成 19 年 9 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念及び職場理念の中において成文として、地域密着型サービスを唱えてはいないが、運営者、管理者、職員全員が、地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来るよう支援していくことを念頭に日常業務に従事している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念と職場理念を掲げ、管理者と職員は毎朝ミーティング後に理念を唱和し、確認。管理者は職員に理念に基づく運営方針を具体的に話し、共有化を図り、職員は理念を意識しながらケアを実践している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム玄関の目に付く所に明示しており、訪問者が誰でも読んでもらえる様になっている。また、家族に対しても口頭にて説明を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会の行事へ参加したり、ホームの行事に参加してもらったりして顔を合わせる機会を作っている。	○ まだまだ、不十分である為、気軽に立ち寄ってもらえる様、努力していきたい。茶飲み仲間の関係を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事へ参加したり、ホームの行事に参加してもらっている。ホームでの夏祭りでは屋外でバーベキューを一緒に楽しんだり、敬老会においては町内の老人会の方に参加して頂き、歌や踊りを披露してもらったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に発行しているホーム便りを町内に配布しており、「介護の豆知識」を記載し、介護知識を僅かながら知ってもらうようにしている。	○	まだまだ、不十分である。今後の検討課題のひとつにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価において再確認し、外部評価において改善すべきと指摘をうけた項目は改善に向け取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営規定、利用契約書、重要事項、年間行事、入居者の状況、その他ホームの状況を説明し、理解をいただいたと共に助言をもらってサービス向上に活かしている。	○	2ヶ月に1回は多いという委員よりの意見で停滞している。行事の参加等を含めて、定期開催に努力していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問を定期的に受け入れ、市主催の講習会やセミナーに積極的に参加している。また、ホーム長は市内の私立高校・福祉コースの非常勤講師をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議において、資料を読みながら制度を学ぶ機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県よりの通達や法および関連記事について、ミーティング等で理解に努めている。虐待を絶対に起こさないように各職員モラルをしっかりと守って、日常業務に従事している。ストレスを抱えない様職員間で協力し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望で見学に見えた段階から、ご家族の話を傾聴し、ホームのサービス内容について時間をかけて、話し合っている。また、解約についてもご希望に添えるよう情報提供に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の意見、不満、苦情は日常的な会話の中から、また、表情を伺いながら、管理者や職員が聴き出せる様努めている。また、入浴介助で2人きりの時、散歩の時、本人の居室においてなど時間をかけ聴ける機会を作っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や定期的なホーム便りにおいて報告している。体調不良時等必要が生じた場合は電話にて報告、確認、相談を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会議を開催し、家族からの意見や不満、苦情を聞く機会を設けている。また訪問時等に声をかけ話を聞く機会を作っている。ご意見箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り後のミーティングや毎月の職員会議において職員の意見や提案を聴く機会を設けている。並びに上記の機会以外にも日常的に話しを出来る時間を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができる様、職員の確保、勤務の調整はできている。ホーム長はシフトに組み込まず必要に対し、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望を重視し、家庭の事情があるときは常勤から非常勤に変更したりしている。職員の交替があるときは、時期、人選を考慮し、入居者に負担がないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会あるたびに研修に参加し、研修内容をミーティングや勉強会において伝達している。また、定期的に勉強会を開催し、各テーマに沿って自発的に知識を広げている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内、市内のグループホーム協議会のスタッフ交流や研修に参加している。また、市内のグループホームの職員のみで定期的に開催される研修会に自発的に参加している。他のグループホームへの研修や、行事の参加により知識を取り入れている。市内のグループホーム間の相互評価を実施し、相互訪問や助言を取り入れている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回、スタミナ会(親睦会)を行い、親睦の機会を設けている。話しやすい雰囲気のある職場作りに努め、管理者は職員が悩みを抱え込まず、相談や話し合いができる様、常に声をかけている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の意見に耳を傾け、必要であれば業務改善を図り、働き易い職場環境に配慮している。個人の経験年数等に応じた研修参加や、事例発表の場を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前に自宅等を訪問し、家族等から情報提供してもらうようにしている。また、体験入居等の機会を設け、職員全体でどの様にケアして行くか考えていきながら、更なる情報の共有化を目指している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前に自宅等を訪問し、家族の要望を聴いている。並びに入居後もホーム訪問時等、声をかけながら家族の声を聴けるように努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	片麻痺や下肢運動障害があり、リハビリを希望されている方があり、受診援助を行っている。また、理美容については、出張サービスを依頼している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに馴染めるまで家族と相談を重ねながら、本人が馴染みの人と一緒に宿泊してもらったり、頻回に訪問してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が出来ることはできるだけやっていただく。調理しながら食材の下ごしらえ方を教えてもらったり、魚の裁き方を教えてもらったり、より良い家族関係の築き方を教えてもらっている。洗濯たたみ、廊下の掃除等お話ししながら一緒にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問時やホーム便りにおいて、日常的、突発的な本人の言動や行為を話し合い、家族との協力、連携関係を築く様にしている。	○	遠慮しておられる家族もあるので、家族との情報交換をもっと密にし、家族との信頼関係(何でも話せる)を強めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問時間を制限することなく、いつでも訪問出来るようにしている。また、訪問時は本人と家族がゆっくりと過ごせる様努めている。本人の強い要望がある時等はホームから家族へ連絡することもある。	○	家族との連携を更に密にし、関係作りを支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望が少ない為、十分な支援ができていないとは思わないが、要望がある際は応えられる様努めている。土木作業をして公園等を作ったと言われる方と公園を見に行ったりした。	○	日常的な会話の中から、本人の馴染みの人や場所を聴き出し、対応できる様努力していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難聴の利用者が複数いるため、「聞こえないから」と若干遠慮気味に輪に入ろうとしない方もいる為、職員が間に入り、孤立しない様にしている。	○	遠慮し、輪に入ろうとしない方、居室での時間が長い方など、皆さんの中へ入っていける様な対応をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため、退去された方のお見舞いに行き、励ましたり、入院退去後死去されたときは、お参りに行き、家族と思い出話をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仏壇持参の方にはお佛飯の支援をしている。出来る限り食事や日常生活に要望を取り入れて安倍川もちを希望された時など、その日のおやつに取り入れたりしている。散歩が好きな方には庭の花摘み、草取りなど一緒にしている。		これからも、もっと個人の要望応えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出るだけ、入居者の要望に応える様、馴染みの店、場所等へでかけるようにしている。	○	外出の機会を増やし、情報の収集に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の状態、過去の状況等を勘案して、ゆっくりしていただいたり、洗濯物の整理、また調理の下準備等手伝ってもらったりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の受け持ち職員と計画作成者と話し合い、入居者にあった介護計画を作成している。特に必要と思われる計画については家族にも相談している。	○	現状に満足せず、よりよい介護計画作成に努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	受け持ち職員に限らず、見直しが必要時は全職員で検討し、家族とも相談して計画の見直しを行っている。	○	日々の状態を見逃さないように観察し、新たな介護計画に生かしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ケース記録に記入し、また、毎朝のミーティング時に伝達することで、情報の共有化を図っている。	○	現状に満足せず、情報の共有に努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの開設者が近隣地域の住民のため、地域との関係も深く協力が得られる。地域の老人会や保育所よりのボランティアの協力を呼びかけ交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで絵画の先生に週1回きて頂き、絵を書いている。また、行事の際にはフラダンス、カラオケ、幼稚園児に声をかけ、きてもらっている。消防署も定期的に訓練に参加してもらっている。	○	これからも、地域の皆さんとの交流を深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市内の他の老人施設の大規模な夏祭りに参加する等、他のサービスも利用している。	○	これからも積極的に参加していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要がある場合は、協働して支援を行う姿勢である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回協力医(内科)に来て頂き、他科についても本人の要望、施設の受診判断により専門医へ受診している。往診も快く受諾してもらっている。	○	これからも、家族、医療機関等の連携を密にし、より良い医療体制に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医(内科)が認知症に詳しく、週2回来て頂き、入居者の状態を観察してもらっている。異変が生じた時は主治医に連絡し、指示を受けている。主治医と職員はこころやすく相談できる関係にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師2名、准看護師1名が在職しており、協力医はもちろん関係医療機関とも連携を築いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会を頻繁に行うと共に、医療機関との連携を密にし、家族とも状況等を話し合い、納得いく計画を立てている。長期の場合は退院後の対策を医師、家族を含めて検討している。	○	入院に対するストレスを少しでも早く緩和できるように、対応したい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族等の希望を聞き、双方納得いく対応を実施している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	治療処置が優先される場合は、出来ないことがあるが、介護で出来るばあいは、協力医の往診を受け看護師の職員を中心にチームでの支援を考えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次施設、在宅等のケアマネージャと情報提供を十分検討している。当施設はその後もお見舞いに行くなどして、その後状況を出来るだけ収集している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、採用時や折に触れ説明し確認している。日常生活における個人のプライバシーについては注意し、特にトイレ、入浴時は男性、女性の対応については職員の配置を常に検討している。個人を尊重した言葉かけに配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	居室で1対1でゆっくり話をする等、入居者との会話を大切に、その中で本人の希望等を把握し、出来る限り、要望に応えるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の対応、リハビリ、レクリエーションを実施しているが、皆さんに声をかけて、出来るだけ参加を促しているが無理強いはない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	鏡や化粧水など用意している。理容、美容については、出張してもらっているが、人によっては近くの美容室に外出する。どうしても馴染みの美容室(遠方)を希望される方は家族にお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立について、希望を聴いたり、入居者さんの得意料理と一緒に作ったりしている。また、食後の食器洗い、クロス拭き等をして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日会は主賓に希望を聞き、出来るだけ要望に応じている。また、買い物に出かけ、希望を聞いたりしている。時には夕食に焼酎やビールを出している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的に声かけ誘導することで、個人の排泄パターンを把握し、失禁等を減らすようにしている。入居時、片麻痺で床上排泄の方を、車椅子でトイレ移送しオムツはずしに成功した。	○	片麻痺の方のオムツからパンツへのステップアップ。トイレ自立へ向けての支援
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を知らせ、本人の希望時間にゆっくり入浴してもらう。季節によってはバラの花弁を浮かし、気分転換を図っている。浴槽から庭を眺めて楽しんでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	声かけして、本人の好む場所で休んでいただく。(居室、和室、ソファ等)。夜間、さびしいと言う方の場合、傍らでしばらく話をしたりマッサージをしたりして入眠支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人、その人に出来る事を自発的にしてもらっている。洗濯物のたたみ、食器洗い、調理の準備、床掃除などの役割、テレビのスポーツ観戦の支援、レクリエーション参加等の支援。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の希望により、本人の管理できる範囲内で所持してもらっている。買い物など支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の要望に応える様にしているが、身体状況等を判断して買い物、外出の支援を行う。また、施設内の庭を散歩して、草花を摘んだり、野菜、イチジクの収穫を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として、花見、果物刈り、ドライブ等を実施しているが、個人的な要望については、家族と相談の上、計画している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、家族の状況等を考慮してかけている。手紙については、外部からの手紙はお見せしているが、本人からの発信は殆どない。家族の面会が多い人は毎日、少なくとも月2～3回は見えている。		毎月、施設からの現状報告はお送りしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られる方々には、必ずお茶を準備し、居間、居室の希望場所でゆっくり会話をしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目標にしているが、危険を及ぼす状況にある時は、ご本人への説明・家族の承諾を得て短時間のベッド柵使用など実施する場合もある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員が目配り、また出入り口にはチャイムをつけており把握できるようにしている。夜間は玄関のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的に巡回を行い、昼間は居間で楽しんでもいただけるように、心がけ職員も常に近くにいるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて取り組んでいる。危険な刃物・薬剤類は、職員と一緒に使用することがあるが日常は目に触れないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月の勉強会、職員会議等で学習している。それぞれのマニュアルを作成している。ヒヤリハットを記録し職員の共通認識を図っている。	○	毎月の勉強会、職員会議等で学習しているが、定期的に再学習していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが、急変等の対応については勉強会を実施している。看護師の職員の知識・技術・経験を基に日常的に取り組んでいる。	○	定期的に事故発生時の対応について、訓練を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は消防署の指導、訓練を受けており、定期的な避難訓練も行っている。また、経営者が地域住民の一員である為、地域の方々の協力も得られ易い。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクの大きい入居者については、家族との話し合いを行い(面会時)、本人らしい生活が出来るように支援している。帰宅願望による無断外出など。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前、午後のバイタルチェック時、日常の観察等により早期発見に努めており、日勤者から夜勤者への情報の引き継ぎ等にて情報の共有を図っている。また、協力医療機関へ、すぐ連絡出来る体制が出来ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個人ごとの投薬一覧を作成し、いつでも確認出来るようにしている。投薬箱も個人ごとに朝昼夕に仕分けして職員が管理している。飲みにくい錠剤等、薬効を考慮し粉末にしている。症状の変化や禁忌食品との関係など留意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便の確認を行っており(チェック表)、対象者には、薬の調整や食事によって、便秘に気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	リビングに洗面所を設置しているため、介護の動線も効率的で毎食後に口腔ケアがスムーズにできている。自立されている方には声をかけて促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立も消化がよく、栄養バランスを考えて調理している。個人に応じた支援を行っている。(定期的な水分補給、きざみ食の調理等)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	人的・物的環境に常に配慮し環境を調整すると共に、異常の早期発見に努めている。マニュアルを作成している。	○	感染予防については、安心ということはないので、今後も勉強会等で知識の向上を図りたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の確認、冷蔵庫内のチェック等を曜日を決めて行っている。また、調理器具等は天候の良い日は必ず、日光消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	面会等に見える方々からは、親しみやすいとの声をいただいている。駐車場も広く、緑も多く静かとの評判である。	○	近隣の方々の来園が行事以外では少ないので、努力が必要である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花、旬の食べ物、庭の草花、果実等で常に季節を感じてもらっている。施設内の居心地のよい環境作りに全職員で常に検討している。熱帯魚の水槽もおき眺めて楽しまれている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のよい方、そうでない方については、さりげなく支援をしている。また、居場所についても常に考慮して席を代えたりしている。廊下に椅子を置いて息抜きの場所をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していたタンス、ベッド等の持ち込み、また仏壇の持ち込みも自由に行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には24時間換気扇の設置をしている。においのするときはプライドに注意しながら芳香剤を使用するときもある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用時のトイレ設置、廊下の手すり、浴室の手すり等工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力を把握し、それを生かした支援に心がけている。各室の表示、自室の表示など分かりやすくしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に遊歩道があり、いつでも散歩ができ、草花を楽しむことができる。ベランダには椅子やテーブルを設置しており、いつでも利用出来る。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 毎朝、朝礼で基本理念、職場理念を全員で唱和して、理念に沿った介護を目指している。
2. 毎朝、サービス評価ガイドブックの項目を当日のリーダーが読み上げ検証している。
3. 体力維持のため、ほとんど毎日レクリエーション（リハ、歌等）を実施している。
4. 理念に基づき、利用者の要望（通院、買い物等）に応える様にしている。
5. 職員は入居者の尊厳を重視し笑顔と優しい声かけに努めている。